

株式会社東陽テクニカ (東証プライム：8151)

2024年9月期第3四半期 決算説明資料

2024年8月7日

“はかる”技術で未来を創る



1. 2024年9月期第3四半期 決算状況
2. 受注高・受注残高
3. 2024年9月期 業績予想
4. 企業価値向上に向けた直近の取り組み
5. 株主還元について
6. 次期中期経営計画策定に向けて

1. 2024年9月期第3四半期 決算状況

✓ 売上高：前年同期比22.5%増

・物性／エネルギー事業が次世代電池やEVなどカーボンニュートラル分野の研究開発の活況を受け、引き続き好調に推移

・機械制御／振動騒音事業では米国及び国内においてAD/ADAS*開発向けの大型案件を計上

✓ 営業利益：前年同期比160.0%増

・売上高の増加による増収効果、価格の見直しや事業構成の変化など

・Q3期間は顧客企業の多くが期初となることから、例年取引量が縮小し、四半期の営業利益としては低調となる傾向

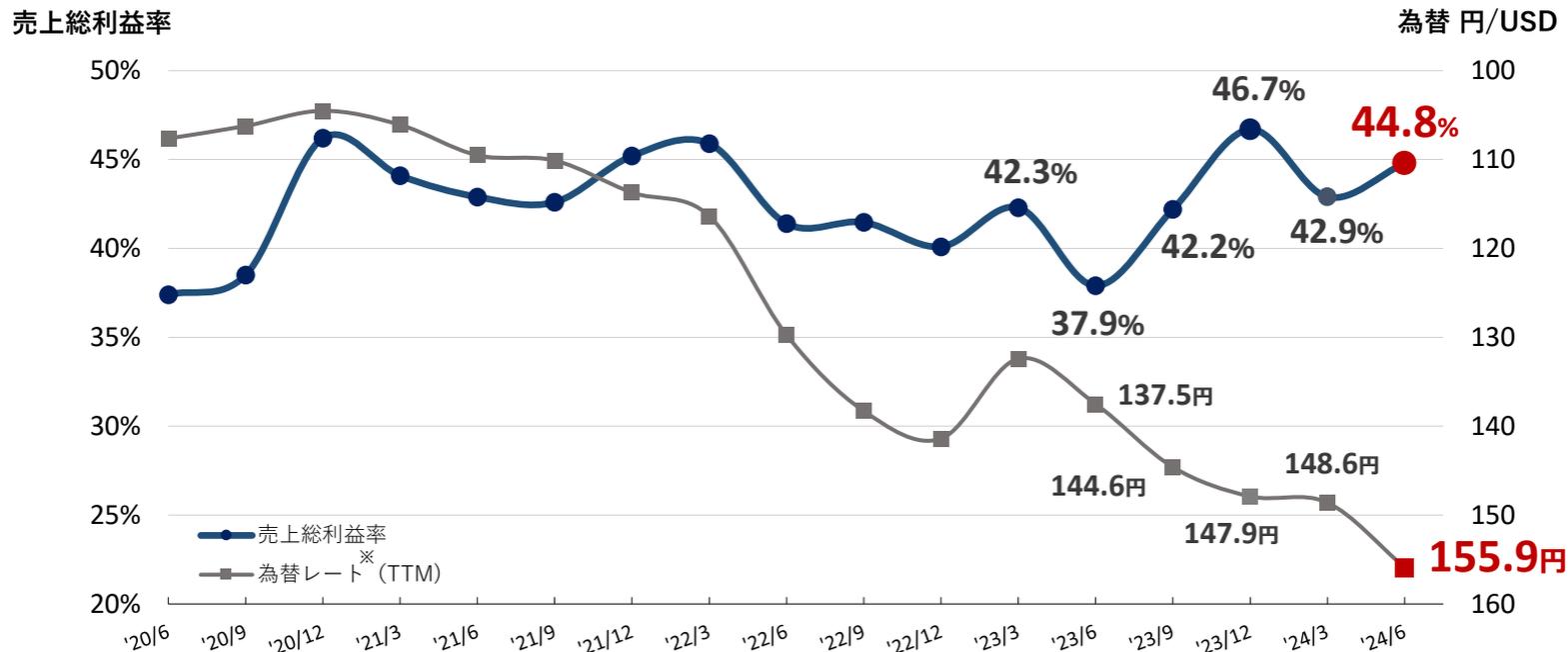
(単位：億円)	2023年9月期 Q3実績	2024年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	211.5	259.2	+47.7	+22.5%
営業利益	11.4	29.7	+18.3	+160.0%
営業利益率	5.4%	11.5%	-	-
経常利益	13.6	31.0	+17.4	+127.6%
当期純利益	9.6	23.2	+13.6	+140.8%

*AD=Autonomous Driving (自動運転)、ADAS=Advanced Driver-Assistance Systems (先進運転支援システム)

為替と売上総利益率の推移

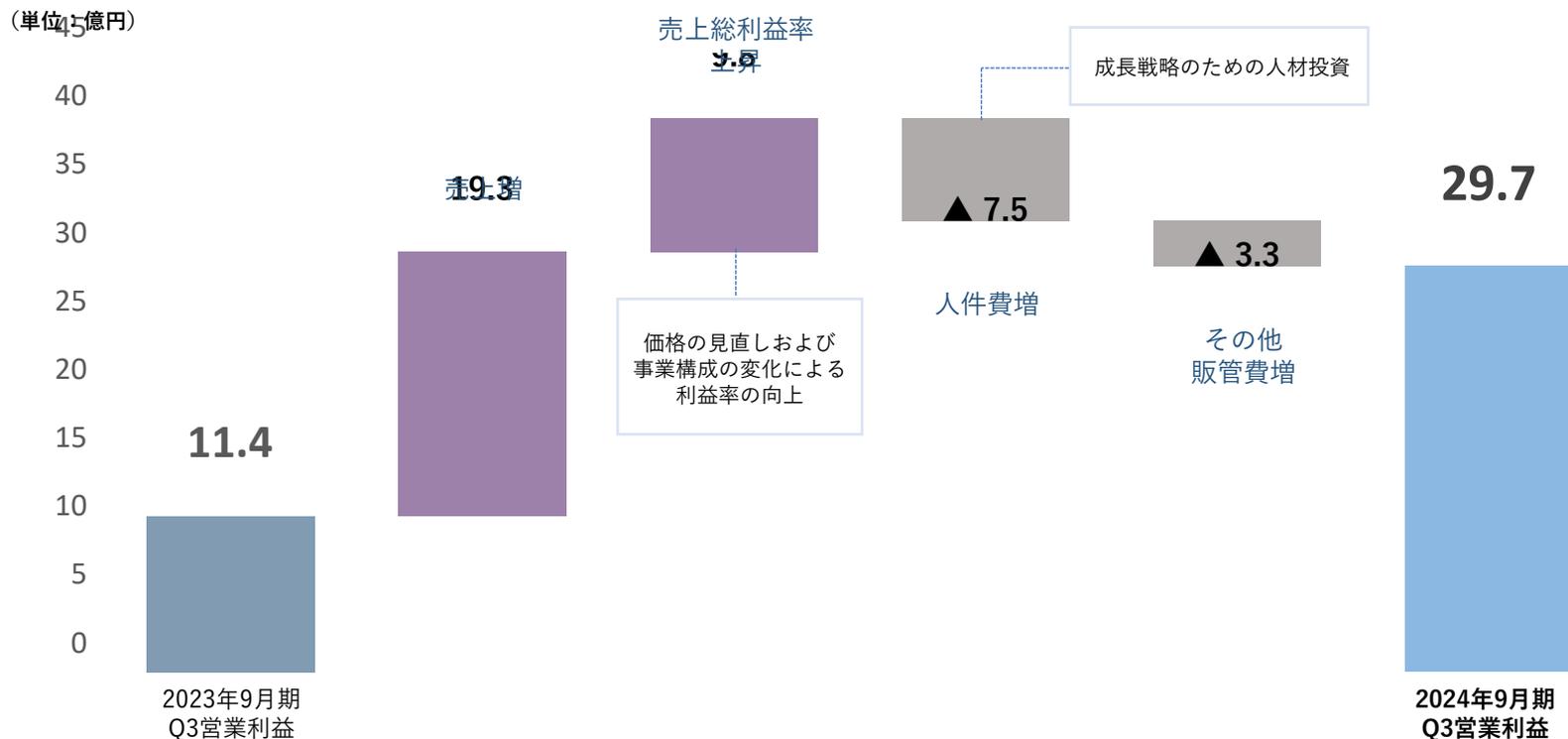
当四半期（Q3）は、円安が一段と進んだものの、事業構成の変化により44.8%に上昇。

Q3累計の売上総利益率は44.3%。



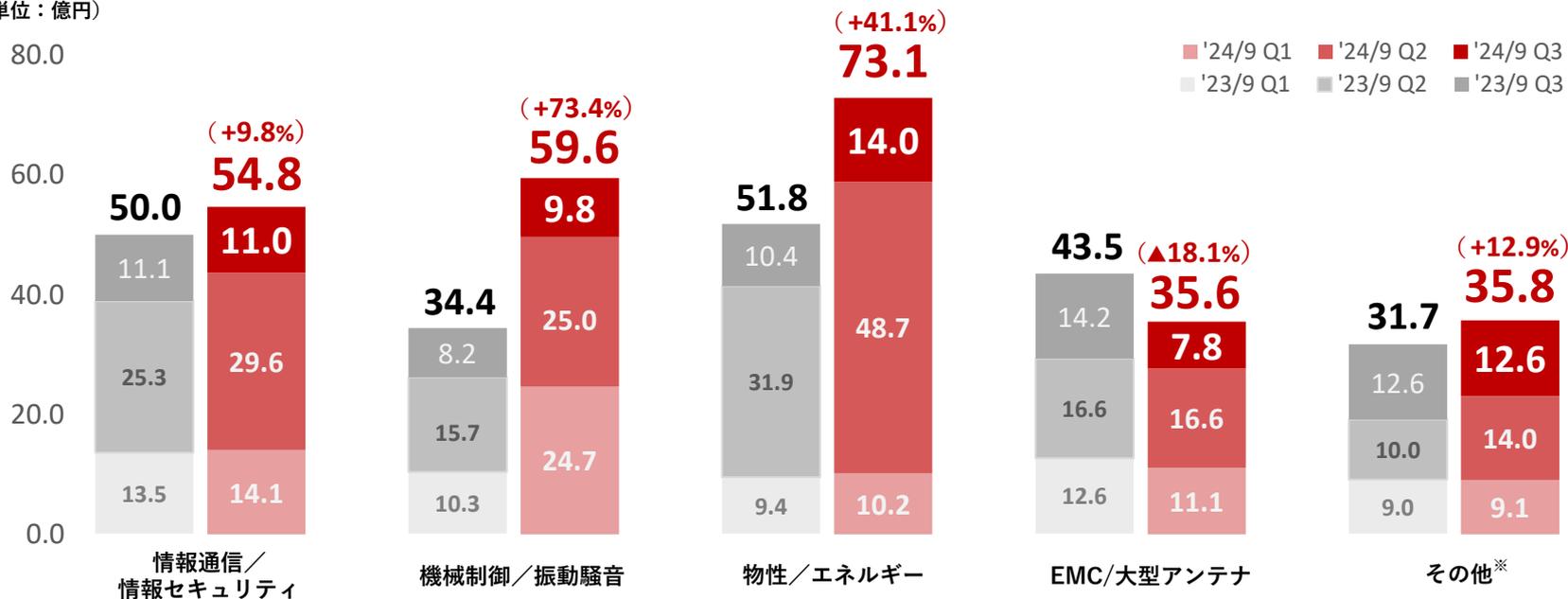
※3ヶ月間ごとの平均レート

売上増、売上総利益率上昇により、Q3累計の営業利益は大幅に増加



季節要因により取引量が縮小するため、例年Q3期間においてはQ2比売上高減少

(単位：億円)



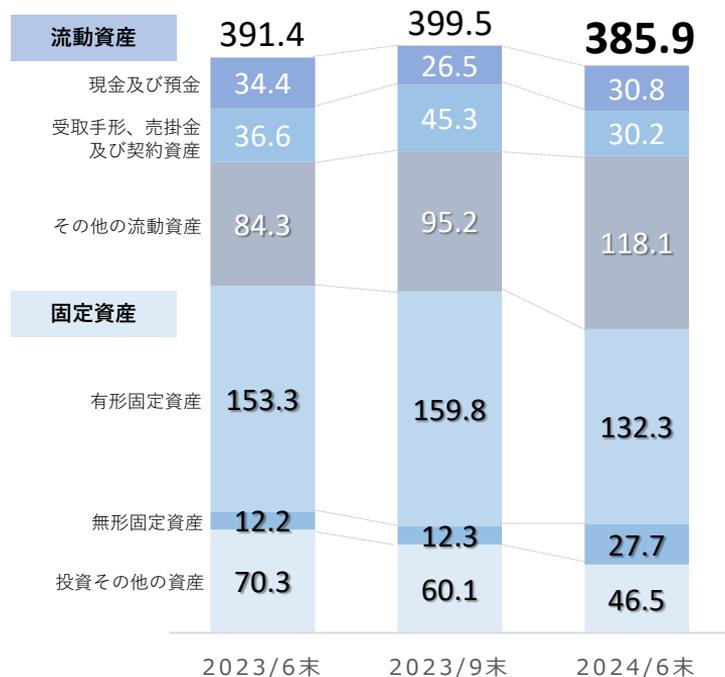
※その他には海洋／特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンスの3セグメントが含まれます。

セグメント別 売上高／セグメント利益分析

(単位：億円)		2023年9月期 Q3実績	2024年9月期 Q3実績	前年同期比		事業概況
				増減金額	増減率	
情報通信／ 情報セキュリティ	売上高	50.0	54.8	+4.8	+9.8%	<ul style="list-style-type: none"> ■情報通信分野の大手通信事業者向けネットワーク性能試験や新規ビジネスのモバイルマッピングシステムが伸長 ■サイバーセキュリティ分野のサービスプロバイダー案件が堅調に推移
	セグメント利益	1.6	2.9	+1.3	+81.9%	
	利益率	3.2%	5.3%	+2.1P	—	
機械制御／振動騒音	売上高	34.4	59.6	+25.2	+73.4%	<ul style="list-style-type: none"> ■AD/ADAS開発向けの大型案件を国内外で計上 ■価格の見直しによる利益率の改善などもあり、売上高、セグメント利益ともに大幅に増加
	セグメント利益	2.7	14.2	+11.5	+413.9%	
	利益率	7.8%	23.8%	+16.0P	—	
物性／エネルギー	売上高	51.8	73.1	+21.3	+41.1%	<ul style="list-style-type: none"> ■基礎電気化学測定システムや電池の充放電測定システムが非常に好調に推移 ■売上高、セグメント利益ともに大幅に増加
	セグメント利益	12.2	17.1	+4.9	+39.6%	
	利益率	23.6%	23.4%	▲0.2P	—	
EMC／ 大型アンテナ	売上高	43.5	35.6	▲7.9	▲18.1%	<ul style="list-style-type: none"> ■東陽EMCエンジニアリングの連結による売上増はあったものの、前年同期は中国で大型案件の計上があったため、今期の売上高は減少 ■利益率が改善したことで前年同期に比べ、セグメント利益は増加
	セグメント利益	2.4	2.8	+0.4	+19.5%	
	利益率	5.5%	7.9%	+2.4P	—	
その他	売上高	31.7	35.8	+4.1	+12.9%	<ul style="list-style-type: none"> ■海洋／特機事業において、大型案件や前倒し案件の計上などにより売上高が増加したほか、増収効果や価格改定効果によりセグメント利益も増加 ■ソフトウェア開発支援事業において、ゲーム開発用のバージョン管理ツールなどゲーム関連企業向けの販売が堅調に推移
	セグメント利益	4.8	5.8	+1.0	+20.8%	
	利益率	15.1%	16.2%	+1.1P	—	

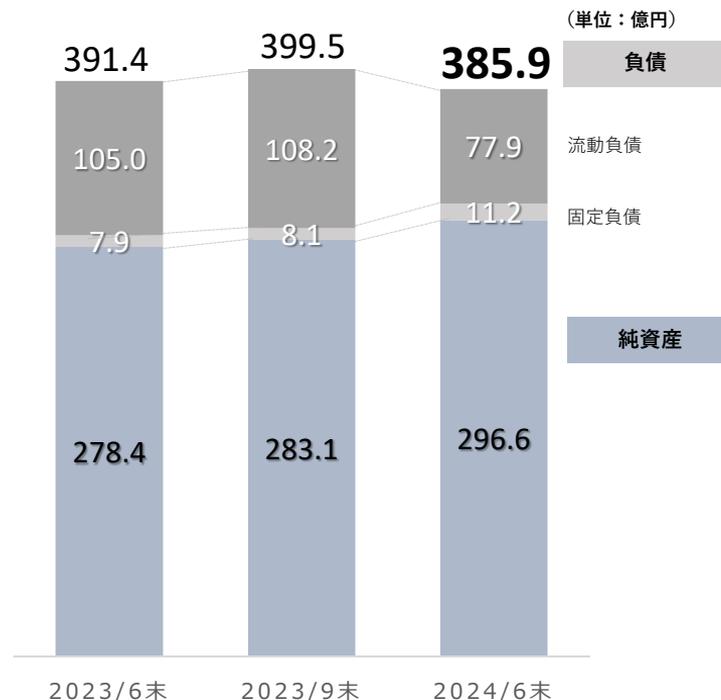
総資産

- 流動資産：「受取手形、売掛金及び契約資産」が減少
- 固定資産：「建物及び構築物（純額）」「土地」が減少、「のれん」が増加



負債・純資産

- 負債：「前受金」が減少
- 純資産：「利益剰余金」が増加



2. 受注高・受注残高

✓ **受注高：**

- ・ 機械制御／振動騒音事業、海洋／特機事業が大きく増加

✓ **受注残高：**

- ・ EMC／大型アンテナ事業が減少したことなどにより、前年同期比で減少

(単位：億円)	2023年9月期 Q3実績	2024年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
受注高	232.8	245.9	+13.1	+5.6%
受注残高	176.8	173.0	▲3.8	▲2.1%

セグメント別 受注高／受注残高分析

(単位：億円)		2023年9月期 Q3実績	2024年9月期 Q3実績	前年同期比		事業概況
				増減金額	増減率	
情報通信／ 情報セキュリティ	受注高	56.7	58.6	+1.9	+3.2%	■情報通信分野で大手通信事業者向けや新規ビジネスが堅調に推移したことなどにより、当セグメントの受注高・受注残高ともに増加
	受注残高	33.2	34.2	+1.0	+3.0%	■情報セキュリティ分野では、サービスプロバイダー向けが堅調に推移
機械制御／振動騒音	受注高	43.4	57.0	+13.6	+31.4%	■子会社のRototest社製品が国内外で新規受注を獲得したことなどにより受注高が増加
	受注残高	34.0	35.3	+1.3	+3.7%	■当四半期での受注増加により受注残高も増加
物性／エネルギー	受注高	62.5	56.4	▲6.1	▲9.7%	■基礎電気化学測定システムの受注は堅調に推移したものの、自動車電動化関連で複数顧客の発注遅れなどがあり、受注高は減少
	受注残高	48.9	42.9	▲6.0	▲12.2%	■受注高が減少し、積み上がっていた受注の売上計上が進んだため、受注残高についても減少
EMC／ 大型アンテナ	受注高	33.8	27.4	▲6.4	▲19.1%	■市場の競争激化や顧客の発注延期などの影響により受注高は減少
	受注残高	33.9	23.3	▲10.6	▲31.4%	■受注高減少により、受注残高においても前年同期に比べ大きく減少
その他	受注高	36.2	46.4	+10.2	+28.1%	■海洋／特機事業の受注が非常に好調だったほか、ソフトウェア開発支援事業、ライフサイエンス事業の受注も増加
	受注残高	26.5	37.1	+10.6	+40.0%	■海洋／特機事業の好調な受注により受注残高も大幅に増加

3. 2024年9月期 業績予想

上方修正した通期予想に対する進捗率は、**売上高で約75%、営業利益で約89%**と順調に推移

(単位：億円)	2023年9月期 通期実績	2024年9月期 通期業績予想 (5月15日発表)	前期比		2024年9月期 Q3実績	通期予想比	
			増減金額	増減率		進捗率	Q4必要額
売上高	281.7	345.0	+63.3	+22.5%	259.2	75.1%	85.8
営業利益	14.7	33.5	+18.8	+127.5%	29.7	88.7%	3.8
営業利益率	5.2%	9.7%	+4.5P	—	11.5%	—	—
経常利益	18.0	34.0	+16.0	+88.8%	31.0	91.2%	3.0
当期純利益	15.3	25.0	+9.7	+63.0%	23.2	92.8%	1.8
ROE	5.3%	8.7%	+3.4P	—	—	—	—

4. 企業価値向上に向けた 直近の取り組み

子会社Rototest社製品が新たな大型案件 3 件 4 セットを受注

【機械制御／振動騒音事業】

- 3月に当社子会社であるRototest 社のハブ結合式シャシダイナモメーターシステム「ROTOTEST® Energy™」 2セットを米国大手自動車メーカーより受注

このシステムはAD/ADAS開発向けVILS※試験用製品（1セット約2億円～10億円）で、上記自動車メーカーからは、今期Q1に納入した2セットに続く再受注

- システムの性能と当社の技術的サポートが高く評価され、このほかにもQ3に国内大手自動車メーカーと英国エンジニアリング会社から新規受注を獲得。
これら3件は来期以降に売上計上される見込み



施設内において実車走行での模擬試験が可能なハブ結合式シャシダイナモメーター「ROTOTEST® Energy™」

ご参照：当社ニュースリリース(2024年3月26日)
Rototest 社のハブ結合式シャシダイナモメーターシステム
米国大手自動車メーカーより新たに二式受注
https://assets.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/240326_rototest_72027.pdf

※VILS= Vehicle in the Loop Simulation（実車を用いたシミュレーション）

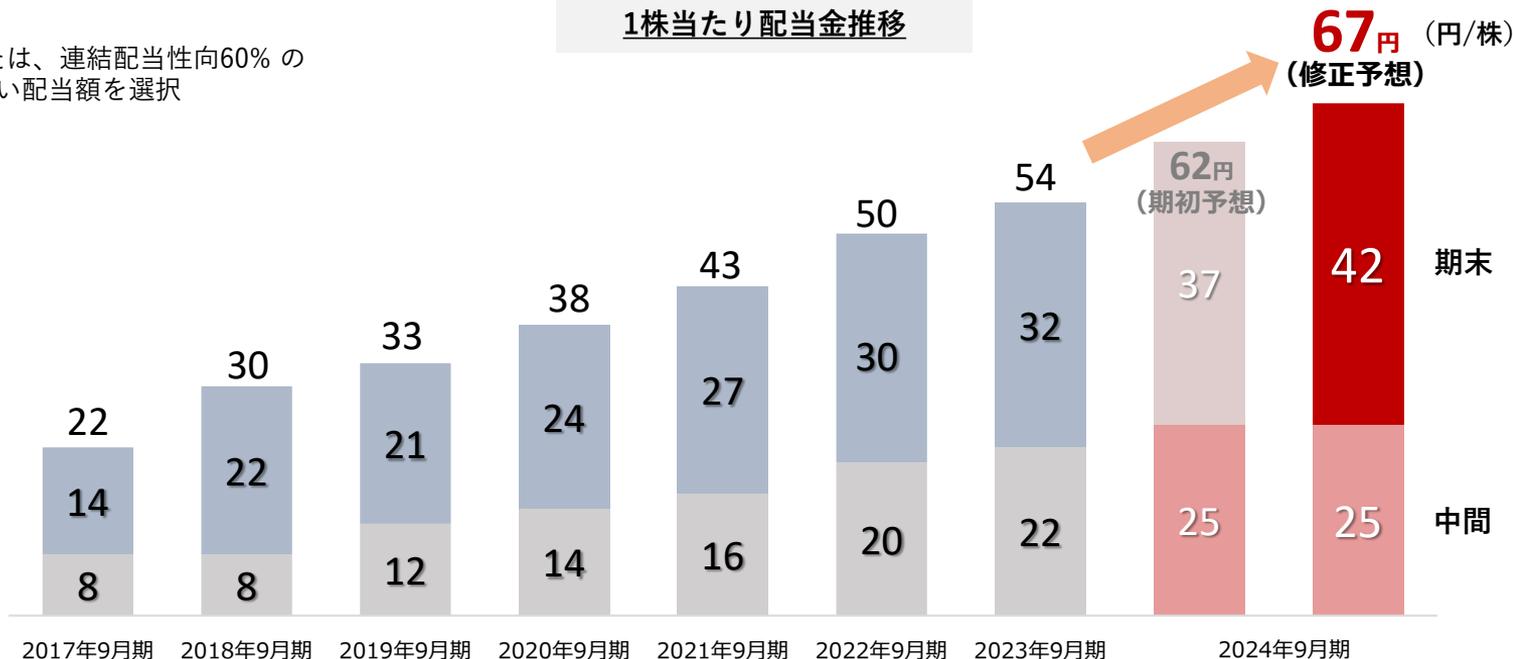
5. 株主還元について

期末配当予想を37円から42円に5円上方修正、年間配当は過去最高となる67円を予想

【配当方針】

DOE※4% または、連結配当性向60% のいずれか大きい配当額を選択

1株当たり配当金推移



※DOE (自己資本配当率) = 年間配当総額 ÷ 自己資本

- ・ Q3決算発表と同時に、**120万株、15億円を上限とする自己株式の取得**を発表
- ・ **複数の事業法人株主に当社株式の売却を要請し、取得株式の一部はToSTNeT-3で取得**

- ✓ 取得対象株式の種類：当社普通株式
- ✓ 取得し得る株式の総数：120万株（上限）
- ✓ 株式の取得価額の総額：15億円（上限）
- ✓ 取得期間：2024年8月8日～2025年7月31日
- ✓ 取得の方法：事前公表型市場買付(ToSTNeT-3)を含む
東京証券取引所における市場買付

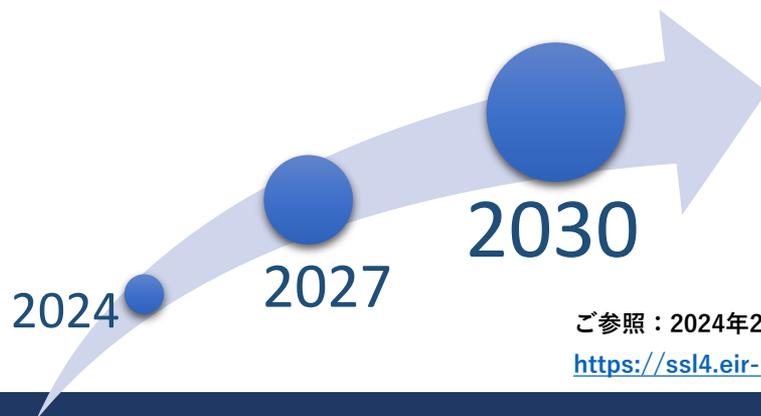
・近年の自己株式取得実績

取得期間	株式の種類	株式数	取得総額
2022年8月12日～2023年6月15日	当社普通株式	1,492,100株	1,999,945,015円
2021年8月6日	当社普通株式	959,000株	1,130,661,000円

6. 次期中期経営計画 策定に向けて

次期中計策定のポイント

- ✓ **投資計画などの資本政策を策定**
 - ・有利子負債の活用も含め、経営資源の配分を検討・提示
- ✓ **事業戦略を基に計画策定**
 - ・成長の軸として定義した事業戦略を基に計画策定を進める
- ✓ **長期視点での目指す姿を提示**
 - ・将来のありたい姿を定義し、バックキャストで来期からの計画を策定



事業戦略案（一部抜粋）

- ** 脱炭素、気候変動、その他環境問題に関するビジネス
- ** 先進モビリティビジネス
- ** 自社オリジナルソリューション、および製品
- ** リカーリングビジネス
- ** M&Aによる事業成長

ご参照：2024年2月14日開示「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/8151/tdnet/2399392/00.pdf>

IR ニュースメール

<https://www.toyo.co.jp/ir/mail-magazine/>



IRニュースメール
配信登録はこちら

当社のIR情報をタイムリーにメールでお届けいたします
ぜひご登録ください

IR サイト

決算説明会の書き起こしを
ご覧いただけます

<https://www.toyo.co.jp/ir/>
<https://www.toyo.co.jp/ir/library/document/>

2024年9月期第2四半期 決算ハイライト

項目	2024年9月期第2四半期	2024年9月期第1四半期	2024年9月期第2四半期	2024年9月期第1四半期
売上高	154.0	203.6	+8.2%	+1.3%
営業利益	16.0	33.3	+8.3%	+81.3%
経常利益	15.0	34.5	+12.7%	+84.6%
純利益	11.8	24.7	+13.1%	+87.3%

※ 2024年9月期第2四半期の決算状況についてご説明申し上げます。決算ハイライトといたしましては、売上高は物性・メカニクス事業がカーボンニュートラル分野の成長を牽引、多額の大型案件も売上向上とするとともに、引き続き新製品の導入を進めています。

また、機械部/自動車部事業では、半導体向けASIC開発用の大型案件の好立上に加え、第2四半期に予定していた設備の追加投資が完了いたしました。

さらに、そのほかの事業においても第2四半期以降に計画中の設備の追加投資が予定

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。

お問い合わせ先
株式会社東陽テクニカ
経営企画部
toyo-ir@toyo.co.jp

“はかる”技術で未来を創る